

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25245080

研究課題名(和文) 多様性と民主主義を視点としたシティズンシップ教育の国際比較研究

研究課題名(英文) International Comparative Research on Citizenship Education focus on Diversity and Democracy

研究代表者

池野 範男 (Ikeno, Norio)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：10151309

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の研究成果は次の3点にまとめられる。  
シティズンシップ教育の欧米型、アジア型、日本型という3つの類型化を試みたこと、英国の事例を通して、ドラマの教育とシティズンシップの教育の関連から、シティズンシップ教育の在り方の類型化を図ったこと、われわれは、シティズンシップ教育の類型化とその特質の解明を図り、共通性として、コモングッド(共通善)の探求、つまり、各国・地域を超えてどこでもだれもが人(類)としてもつべき「普遍的価値」を育てることを目指していることを発見したことである。

研究成果の概要(英文)：Our research found out the followings.  
1.we tried making three types of the European and American model, the Asian model, and the Japanese model of citizenship education.2.we tried a typology of the state of the citizenship education based on the research of the educational relation between the education for drama and the education for citizenship in England.3.we made citizenship education three types and clarified characteristics of each type, and found that each type is aiming to bring up a search of common Goods, in other words the "universal value" in which everyone should have as the common characteristic as a person, the mankind everywhere beyond each country and an area.

研究分野：社会科学

キーワード：シティズンシップ教育 多様性 民主主義 比較研究 類型化

### 1. 研究開始当初の背景

シティズンシップ(市民性)教育とは、一人一人が社会のエンジンを構成し変革を進める社会の構成員を育成する教育のことである。

本研究は、主に科学研究費補助金による研究とその成果から着想を得ている。これまで、研究代表者として平成17 - 20年度基盤研究(A)「我が国との比較を視点とした英国シティズンシップ教育の計画・実施・評価・改善の研究」、平成19 - 21年度萌芽研究「アジア的シティズンシップ教育とヨーロッパ的シティズンシップ教育の比較調査研究」、平成21 - 24年度基盤研究(A)「グローバル・スタンダードに基づくシティズンシップ教育の評価研究」、平成23 - 24年度挑戦的萌芽研究「シティズンシップ教育の学校パイロット評価研究 - カリキュラムと実施における教育効果」を行い、Ikeno(ed.), *Citizenship Education in Japan* (Continuum, 2011)を出版した。これらの研究と研究結果で明らかにした成果は次のものである。

1 : いろいろなシティズンシップ教育があること(多様性)

2 : シティズンシップ教育は欧米とアジア、日本において大きく異なっていること

(1) 目標の設定において、欧米は多段階として構成するのに対し、アジアでは統一的な一段階として構成する。

(2) 道徳性・社会性において、欧米は開かれたもので、原理的に留まるのに対し、アジアでは特定の決められたものとして構成する。

(3) 日本は、欧米とアジアのもの、あるいは、両面をもったもの

である。

3 : 世界のシティズンシップ教育として共通したもの=グローバル・スタンダードとして、

(1) 地域性、国民性、グローバル性をもち、

(2) 政治的、経済的、社会的リテラシーをもち、

(3) 民主主義の原理を理解し、それにもとづいて行動し、

(4) 開かれた社会を作り出す、市民を要請している。

4 : 世界のシティズンシップ教育には、欧米型、アジア型、日本型を見い出すことができる。

また、学術的背景としては次のような点を配慮した。

各国・地域のシティズンシップ教育の多様性は、我が国では嶺井(2007)、Ikeno(2011)、世界ではArthur, Davies and Hahn(2008)に代表される研究によって、明らかにされてきた。いまや、多様性に隠れている共通するものを究明することが、グローバルな研究として求められており、その構造と原理を明らかにすることが要請されている。

世界のシティズンシップ教育の構造と原理という核心を発見し説明するために立案した本研究で採用する研究の方法は、類型化による比較研究である。つまり、要素、要因によって類型を構成し、各国・地域のシティズンシップ教育を教育政策、カリキュラム、実践において比較検討し、その構造と原理を明らかにすることである。

そのためには、次の2つが手立てとして考えられる。

#### 類型的研究

シティズンシップ教育のちがいや多様性を前提しつつ、一定の物差しとなる共通

する要素や要因で、各国・地域のシティズンシップ教育を、欧米型、アジア型、日本型の3つの類型に分け、考察する。

#### 構造の多側面の総合的研究

各型の個別研究ではなく、教育の多様な側面、1) 政策、カリキュラム、実践、2) 社会問題、国際理解、環境教育、道徳性などの主要テーマ、3) 幼児期、児童期、青少年期などの発達段階、4) 教科教育、教科外活動の学校教育、社会教育によって、各型の構造と原理を比較可能なものにする。

## 2. 研究の目的

1. の背景において説明した研究の成果と学術的背景にもとづくと、さらに、次の2つの研究課題を解決することが必要となっており、これらを研究の目的にすることにした。

シティズンシップ教育といっても、多様であり、その多様性を意識し、区別することが必要であること、そのために、多様性があるとしても、共通的なものに着目し、欧米型、アジア型、日本型に類型化し、その構造と原理を究明すること。

また、そのために、研究上の階層的目標を次のように設定した。

研究目標: 国際共同研究によって、欧米型、アジア型、日本型のシティズンシップ教育を多面的に比較考察し、各型の構造と原理を解明する。

下位目標1: 3つの型のシティズンシップ教育を教育の3側面、教育政策、カリキュラム、教育実践において比較検討し、各型の構造を抽出する。

下位目標2: 3つの型のシティズンシップ教育を主要テーマである、社会問題、国

際理解、環境、道徳性の教育の側面において比較検討し、各型の構造を抽出する。

下位目標3: 3つの型のシティズンシップ教育を発達段階、幼児期、児童期、青少年期において比較検討し、各型の構造と原理を抽出する。

下位目標4: 3つの型のシティズンシップ教育を教育の行われる所、教科教育、教科外の学校教育、社会教育において比較検討し、各型の構造と原理を抽出する。

下位目標5: 3つの型のシティズンシップ教育の構造と原理を比較考察し、共通するものと相違するものによって、現代世界のシティズンシップ教育の特質を究明する。

## 3. 研究の方法

本研究で採用した研究方法は、類型化による比較研究である。国際共同研究によって、欧米型、アジア型、日本型のシティズンシップ教育を多面的に比較考察し、各型の構造と原理を解明することである。

## 4. 研究成果

2015年度は、シティズンシップ教育と、品格、徳や価値・規範、論争問題や持続的問題との関連に焦点化することにした。

その結果、次の研究成果を出した。米国と韓国の研究者とともに、「シティズンシップ教育における論争問題学習の意義と役割の国際比較」を開催し、論争問題学習を事例にして、シティズンシップ教育の欧米型、アジア型、日本型という3つの類型化を試みたこと、内外の研究者を招き、2015年7月23日広島大学で、7月25-26日キャンパスイノベーションセンター東京で、「品格、徳、シティズンシップ教育のためのプロジェクト」のもと、第4回国際会議を開き、市民社会における道徳性とシティズンシップの教育的関連を研究したこと、米国の研究者とともに、「シティズンシップ教

育実践の発展に研究はどのように寄与できるか？」について論議し、研究と実践の考察をしたこと、英国研究者と、ドラマの教育とシティズンシップの教育のコラボ研究を開始し、シティズンシップ教育の在り方を別の側面から類型化を図りはじめたこと、研究成果として、池野範男「シティズンシップ教育と道徳教育」、および、Putting the case for building a bridge between drama and citizenship education.を示すことができた。

2016年度では、シティズンシップ教育と関わりが深い歴史教育を題材にして、シティズンシップ教育と他領域との関連を米国の研究者と、2016年5月28 - 29日、東京（キャンパスイノベーションセンター東京）6月2日、広島（広島大学）で、また、2017年2月15日、英国とマルタの研究者と、広島（広島大学）で、国際講演会を開催した。これらの国際会議を通して、英米との比較研究を同時に行った。

また、シティズンシップ教育と哲学や政治学との関連に関して、英国の研究者を招聘し、日本の研究者との国際セミナーを、2017年1月7日に、東京（キャンパスイノベーションセンター東京）で、1月9日に、福岡（九州大学）で開催した。

これらの国際会議とセミナーにより、シティズンシップ教育の類型化とその特質の解明を図った。その結果、共通性として、コモングッド（共通善）の探求、つまり、各国・地域を超えてどこでもだれもが人（類）としてもつべき「普遍的価値」を育てることを目指しており、それを支える哲学的政治学的立場として、共和主義を保持していることを明らかにした。また、それぞれの国や地域の固有性もそこでは働いており、たとえば、道徳性との関係でみれば、英米ではキリスト教的価値やその倫理が、アジア、日本では仏教的価値やその倫理がその

基盤を作っていることを見出した。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

池野範男、社会科におけるシティズンシップ教育とその意義 - 家庭科との関連から - 、日本家庭科教育学会編『日本家庭科教育学会誌』、査読有、第59巻第3号、2016年11月、pp.166-167、2016。

池野範男、学校教育におけるシティズンシップ教育の必要性、『指導と評価』2016年4月号、pp.54 - 56、2016。

Ikeno, Norio; Fukazawa, Hiro; Watanabe, Jun; Elliott, Victoria; Shawyer, Catherine; Olive, Sarah Elizabeth; Davies, Ian, Putting the case for building a bridge between drama and citizenship education. In: *Citizenship Teaching & Learning*, 査読有, Vol. 10, No. 3, 2015, pp. 237-250.

池野範男、グローバル時代のシティズンシップ教育 - 問題点と可能性：民主主義と公共の論理 - 、日本教育学会編『教育学研究』、査読有、第81巻第2号、pp.138-149、2014。

Ikeno, Norio, As Citizenship Education Globalizes, Why Do Individual Countries and Regions Differ in their Approach to it ?, *The Journal of Social Studies Education*, 査読有, vol. 3, pp37-52, 2014.

[学会発表](計 4 件)

池野範男、グローバル・シティズンシップ教育がなぜ、要請されているのか - 存在理由と在り方 - 、第1回広島大学ユネスココンソーシアムESD研修会、

2016年2月2日、広島大学大学院教育学研究科。

池野範男、シティズンシップ教育がなぜ、グローバルになる必要があるのか、第10回広島ESD・ユネスコスクール研究会、2015年12月19日、広島大学附属中高等学校。

Ikeno, Norio, Education, citizenship and drama in Japan and England, The international seminar hosted by the Centre for Research on Education and Social Justice, Department of Education, University of York, UK, 10 December 2014

Ikeno, Norio, Global Citizenship Education in Japan: Retrospective and Prospective, 2014 Annual Conference in Korea Association on Social Education, Gyeong-Sang national University, South Korea, 29 July 2014.

〔図書〕(計 1 件)

日本教育方法学会編『教育方法44 教育のグローバル化と道德の「特別の教科」化』図書文化、2015年、全160頁。(分担執筆：池野範男「シティズンシップ教育と道德教育」(第4部) 95-108頁。)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：

種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池野 範男 (IKENO, Norio)  
広島大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号：10151309

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

坪田 益美 (TSUBOTA, Masumi)  
東北学院大学・教養学部・准教授  
研究者番号：20616495

谷口 和也 (TANIGUCHI, Kazuya)  
東北大学・大学院教育学研究科・准教授  
研究者番号：60281945

桐谷 正信 (KIRITANI, Masanobu)  
埼玉大学・教育学部・教授  
研究者番号：90302504

森茂 岳雄 (MORIMO, Takeo)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号：30201817

渡部 竜也 (WATANABE, Tatsuya)  
東京学芸大学・教育学部・准教授  
研究者番号：10401449

田中 伸 (TANAKA, Noboru)  
岐阜大学・教育学部・准教授  
研究者番号：70508465

川口 広美 (KAWAGUCHI, Hiromi)  
滋賀大学・教育学部・准教授  
研究者番号：80710839

藤原 孝章 (FUJIWARA, Takaaki)  
同志社女子大学・現代社会学部・教授  
研究者番号：70313583

水山 光春 (MIZUYAMA, Mitsuharu)  
京都教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：80303923

橋崎 頼子 (HASHISAKI, Yoriko)  
奈良教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：30636444

桑原 敏典 (KUWABARA, Toshinori)  
岡山大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号： 70294395

蓮見 二郎 (HASUNI, Jiro)  
九州大学・大学院法学研究科・准教授  
研究者番号： 40532437

吉村 功太郎 (YOSHIMURA, Kotaro)  
宮崎大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号： 00270265

(4)研究協力者

斎藤 仁一郎 (SAITO, Jinichiro)  
堀田 諭 (HORITA, Satoru)  
空 健太 (SORA, Kenta)  
福井 駿 (FUKUI, Suguru)